



<N0213>

ヤブカンゾウ(藪萱草)

夏を代表する花の一つに、愛川の人里で普通に見られるヤブカンゾウがある。花径 10cm ほどの燈赤色の大きな花だ。同じ時期に同じような場所に咲くノカンゾウは一重咲きであるのに対しヤブカンゾウは八重咲きであることから区別は容易である。

ヤブカンゾウの開花はその日だけで翌朝にはしぼむ一日花であるが、成長度合いの違うたくさんの蕾が控えていて、順序良く1個ずつ咲かせるため一つの花が数日咲いているように見える。

花柄やつぼみに、白いロウ物質で覆われたキスゲフクレアブラムシに取りつかれてしまった株を見かけることがある。

カンゾウは「萱草」と書くが、マメ科のカンゾウ(甘草)とは違うものである。どちらも生薬名からきている。若い葉は平安時代から食べられていた記録があるそうで、今日でも山菜として好まれ、和え物、お浸し等で食べられている。ユリ科の多年草。